

7/18 (土)

地域研究コンソーシアム(JCAS) オンデマンド=セミナー

京都大学地域研究統合情報センター 西芳実 准教授

講演「災害対応の国際協力を考える」

平成27年度SGH関連講演の最終回として、地域研究コンソーシアムのご協力のもと、西芳実先生の講演をお聴きしました。

西先生は、巨大津波で大きな被害を受けたインドネシア・スマトラ島に滞在され、その災害対応過程に関わりながら、地域住民が何を求め、どのように苦難を乗り越えたか、国際協力はどのような視点を持つべきか、など幅広く探究されてきました。

東南アジアと日本は災害の多い点では共通しています。しかし、そもそも「災害」とは何なのか、被災者に寄り添うためには何を踏まえるべきか、津波で失われたものは20万をこえる人命以外に何があったのかなど、視点を変えてみると、気付いていないことの多さに驚かされます。

「スマトラの被災者は笑っていた」

「遺体の見つからない肉親を弔わねばならなかった」

防災や減災の技術を磨くことも必要ですが、地域を知り、そこに住む人々の現実を知ることも、極めて重要な災害対応と言えそうです。

当日は台風の影響で交通機関が乱れていました。そのような中、来校いただいた西先生に感謝申し上げます。

